

令和4年度（2022年度）北海道いじめ問題審議会（第4回）会議録

【次第】

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 「令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果について
 - (2) その他
- 3 閉会

【出席者】

(会長)

○北翔大学教授 飯田 昭人

(副会長)

○札幌弁護士会「子どもの権利委員会」委員 根本 寛子（オンライン）

(委員)

○北海道教育大学教授 平野 直己（オンライン）

○札幌学院大学准教授 井上 大樹（オンライン）

○北海道PTA連合会参与 三澤 祥子

○北海道社会教育委員連絡協議会会長 岩野 真志

○北翔大学准教授 新川 貴紀（オンライン）

○札幌国際大学教授 鈴木 憲治

○北海道人権擁護委員連合会委員 田坂 恭子（オンライン）

○北海道医師会常任理事 三戸 和昭（オンライン）

【欠席者】

なし

【事務局】

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全担当局長 伊藤 伸一

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課課長 泉野 将司

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課課長補佐 松田 卓也

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課主幹 前田 高伸

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課総括主査兼企画・調整係長 佐伯 基

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課生徒指導係係長 木野下尚大

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課生徒指導係主査 稲川 洋生

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課生徒指導係主任指導主事 永野間雅博

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課生徒指導係主任指導主事 佐藤 鮎美

○北海道教育庁学校教育局生徒指導・学校安全課生徒指導係指導主事 及川 剛志

【日時及び場所】

○令和5年（2023年）1月25日（水）18時00分～20時00分

○かでの2. 7 1050会議室（札幌市中央区北2条西7丁目）

【会議録】

- 1 開会

(泉野課長)

ただいまから令和4年度第4回北海道いじめ問題審議会を開会いたします。初めに、生徒指導・学校安全担当局長の伊藤より御挨拶申し上げます。

(伊藤局長)

北海道いじめ問題審議会の開会に当たりまして、御挨拶申し上げます。本日は公務御多用の折り、また、少し遅い時間になりましたけども、お集まりいただきまして、感謝申し上げます。皆様方におかれましてはそれぞれのお立場から、本道のいじめ防止の取組に向けまして、御理解、御協力いただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。本審議会は、北海道いじめ防止等に関する条例に基づきまして、いじめの防止の対策、本道の対策をですね、推進を図るため、教育委員会の附属機関として設置され、また、開催をしております。本日は、本年度第4回の審議会となります。昨年10月に公表されました、令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果につきまして、まず御報告させていただきます。皆様方におかれましては、限られた時間ではございますが、それぞれのお立場から忌憚のない御意見をいただきますよう、お願い申し上げます。簡単ではありますが、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(泉野課長)

本日はオンラインで参加されている方6名を含めまして、10名全ての委員が出席しており、会議が成立していることを報告いたします。次に本日の日程について説明をいたします。本日の会議の日程、議事につきましては、お手元の開催要項に記載がございますように、(1)令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について御協議いただきます。なお、(2)その他につきましては、北海道いじめ問題審議会の会議の公開についての1の(2)の規定に基づきまして、非公開としたいと考えてございます。それでは、ここからの議事進行は飯田会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

(飯田会長)

飯田でございます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。これより議事に入ります。なお、この後、事務局から説明を伺う予定ですが、(2)その他については、事務局からの説明のとおり、非公開としたいと考えていますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは非公開というふうにさせていただきます。それでは、議事の(1)令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について、事務局から御説明願います。

(松田課長補佐)

生徒指導・学校安全課の松田です。どうぞよろしくお願いいたします。初めに、昨年10月に公表されました、令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について御説明いたします。配付させていただきました資料1をお手元に御用意いただけますでしょうか。

1ページを御覧ください。1いじめの認知件数の推移では、折れ線グラフの下の表の大枠に、太枠に北海道の公立学校の校種別の認知件数を記載してあります。令和3年度の認知件数は、合計2万2,083件でございます。前年度と比較し、2,938件増加しております。校種別で見ますと、小学校、中学校、特別支援学校は前年度と比較し増加しておりますが、高等学校では減少しております。

次に2学校種別いじめの認知学校数では、認知率の太枠のところですが、合計で65.5%の学校がいじめを認知している状況でございます。校種別に見ますと、小学校、中学校はともに68.9%。高等学校では56.4%。特別支援学校では26.4%の学校がいじめを認知しております。

次に、3いじめの解消状況は、公立学校のいじめの解消率は、合計96.0%でございます。全国平均の80.1%に比べ15.9ポイント高くなっております。

次に、4いじめ発見のきっかけについては、すべての校種で、アンケート調査など、学校の取組により発見が最も多くなっております。次いで、本人からの訴えが多くなっております。

2ページを御覧ください。中段の5いじめの対応では、全ての校種で冷やかしやからかい、悪口やおどし文句、嫌なことを言われるが、最も多くなっております。次いで小学校、中学校、特別支援学校では、軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりするが多く、高等学校では、パソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされるが多い状況にあります。

3ページをお開きください。本道の国公立、小中高特別支援学校におきます、重大事態の発生件数についてでございますが、令和3年度は14件となっております。詳しくは、後ほど資料の方を御覧ください。説明は以上です。

(飯田会長)

はい、どうもありがとうございます。それでは、質疑応答・協議に移ります。

ただいまの説明について御質問、御意見のある委員の方は発言をお願いします。いかがでしょうか。よろしいですか。出るまで、私、感想で結構ですけど、前に聞いたかもしれませんが、全国平均の80.1%に比べて、北海道のいじめの解消が高いのは、どういう要因があるとお考えになりますか。

(松田課長補佐)

指定事業の方で、中1ギャップとか様々な取組を実はしております、その中で人間関係の形成能力を図るようなプログラムも実施しております。そういった取組もまた啓発・普及しています。

あとは、校内研修、各学校の研修の方も全国平均よりもちょっと高い状況でありますので、そういった観点から、先生方のスキルも上がってきているので、解消率が高くなっているのではないかなど。考えられます。

(飯田会長)

はい。どうもありがとうございます。他に委員の皆様いかがでしょうか。はい、では三澤委員、今、マイクが参ります。

(三澤委員)

PTA連合会会長の三澤です、よろしく申し上げます。いじめの解消状況のところの、これは先生たちが、「解消したよ」というふうに言っているところだけですかね。親とかそういう人たちは、ないんですかね。

(飯田会長)

どういう判断で解消としているか、というのを御説明いただきたいということでしょうか。

(松田課長補佐)

ありがとうございます。法律上、いじめ防止対策推進法で、いじめのガイドラインを含めてなんですけれども、いじめの解消というところに条件が2つございまして、いじめの行為そのものが、少なくとも3か月、止まっているということ。あともう1つは、被害を受けた児童生徒さんの心の方ですね、解消されているかどうか、嫌な思いが。ということを実際に確認した条件で、2つ要件がそろったら解消、ということになっています。

(飯田会長)

三澤委員、何かよろしいですか。はい。大丈夫でしょうか。はい、どうも。御意見・御質問ありがとうございます。他に委員の皆様いかがでしょうか。井上委員、手が挙がっていますね。それでは、御発言をお願いいたします。

(井上委員)

はい、聞こえますでしょうか。

(飯田会長)

聞こえます。

(井上委員)

ありがとうございます。

いじめの発見のきっかけというところで、2ページの特別支援学校について質問したいのですが、2位から4位までが、この1年間の間に結構入れ替わっていて、5位もそうですね、随分入れ替わっていて、「学級担任が発見」が、前年度19.0%が令和3年度、3.3%って激減したりですね、本人の訴えが、7%ぐらい上がっているってということで、これは何か、データの特性も含めた理由が、もし分かることがあれば教えていただければと思います。お願いします。

(飯田会長)

はい、井上委員ありがとうございました。いかがでしょう。

(松田課長補佐)

まずは、御質問ありがとうございます。この数字のデータが大きく変化している背景というところまでは、正直申しまして、こちらの方で把握はしていないのが実情でございます。

ただ、想定されることとしてなんですけれども、特別支援学校につきましては、学校数がかなり少ないものから、「回答のあったか、なかった」で1校の回答でも、パーセンテージに大きな差が生じる傾向にはあるかなと思います。以上です。

(飯田会長)

ありがとうございます。井上委員、何かコメント等ございますか。

(井上委員)

そうですね、多分そうだろうなとは思ったのですが、ただ、特別支援学校の場合ですと、いわゆる、あらゆるいじめのパターンって、結構学校外で起こっている可能性がある。加害者が学校の外っていうか他校とか、そういう可能性が十分にあるなと思ったものですから、その辺りが、どう把握されているのかっていうことも含めて、気になったものですから伺わせていただきました。以上です。

(飯田会長)

はい。御質問ありがとうございます。他にいかがでしょうか。それではよろしいでしょうか。はい。それでは、先ほど非公開とするとした協議に移りたいと思いますので、傍聴者、報道機関の方は退席をお願いします。